

科目No.	554	科目名	コミュニケーション学特論2	サブネーム	NPO/NGOとコミュニケーション		
連携機関名	日本メディアエーションセンター	レベル	基礎	講義枠	金曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要	遺伝子組み換え技術、化学品(化学物質)など自分がよく理解できない、よく分らないものは消費者が不安をいだく。専門家は限りなくゼロリスクを求める消費者に苛立ち、消費者は不安を理解しない専門家に苛立つ。自然科学と社会科学のコミュニケーションが関係者間で納得できるまで行なわれる事が必要だと思われる。遺伝子組換えのコンセンサス会議やコミュニケーション会議の取り組み、化学物質円卓会議のリスクコミュニケーション、海外の食や化学物質政策なども含め、リスクコミュニケーションに様々な形で関わってきた関係者が講義する。						

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	消費者・市民が期待するリスクコミュニケーション	1996年以降「遺伝子組換え技術」、「環境ホルモン」、「BSE」問題など、消費者が不安を感じる事が次々に出てきました。この10年間で、リスクコミュニケーションという考え方も徐々に浸透して来ましたが、マスコミ、学者、行政、企業の情報公開、情報伝達は、心豊かで安全で安心な社会づくりのためのリスクコミュニケーションとなっているのか考えます。	9月21日	共通講義棟 1号館 203室	有田 芳子	主婦連合会環境部長
市民参加	2	環境分野における市民参加～オース条約に学ぶ～	「環境問題は、それぞれのレベルで、関心のあるすべての市民が参加することにより最も適切に扱われる」とリオ宣言第10原則は述べている。なぜ市民参加が必要なのか、どのように市民参加を進めていけばよいのか等について、国連欧州経済委員会で採択されたオース条約を紹介し、市民参加型の環境問題の取組みについて紹介する。	9月28日		中下 裕子	オース・ネット事務局長
ベネフィット	3	自動車技術の発展動向とエネルギーの選択基準	自動車の技術発展はハイブリッド車や燃料電池自動車など目覚ましいものがある。先進技術は、錬金術に似てなんの役に立つかは不明なものが多いが、それ自体が役立たなくとも発生技術は様々な利益をもたらした。根本的に水素とは何かから考えてみる。	10月5日		若狭 良治	NPO法人クリーンエネルギーフォーラム
住民参加	4	有害物の無害化処理における市民参加	香川県豊島の産廃不法投棄の無害化処理や和歌山県橋本市、大阪府能勢町におけるダイオキシン汚染土壌の無害化処理における住民参加の実例を紹介するとともに、無害化処理におけるリスクコミュニケーションのあり方を解説する。	10月12日		中地 重晴	環境監視研究所
リスク	5	わたしたちの暮らしと化学物質—身近にあるリスク—	今日のわたしたちの暮らしは、あらゆる場面において多様な化学物質に囲まれている。それらのおかげで、便利で快適な生活が享受できるようになった。しかしその反面、化学物質によるヒトの健康や生態系への影響が危惧されるようになってきた。日常の生活の中の身の回りの化学物質を中心に解説する。	10月19日		村田 幸雄	WWFジャパン(財)世界自然保護基金ジャパン
VOC問題と改善策	6	自動車排出ガスと健康影響・環境影響、問題と改善方策は?	ディーゼル排ガスの黒煙を減少させるための超高圧燃料噴射システムは、この数年で2.5位マイクロン以下からさらにナノレベルにまで小さくなった。ナノレベルに生物が順応し対応力をつけるには数億年が必要だろう、健康影響・環境影響と改善方策を講義する。	10月26日	人間文化 403	若狭 良治	NPO法人 クリーンエネルギーフォーラム
リスクとベネフィット	7	化学物質とどう付き合うか—知らないといけい怖い—	本来どのような化学物質もその性質を理解し、適切に取り扱うならば、それほど怖がる必要はない。学校での「化学」は嫌いだった人でも、ある程度の基礎的な知識があれば、リスクを避ける合理的判断をすることも可能になる。化学物質によるリスクに関する初歩的な考え方を紹介する。	11月2日	共通講義棟 1号館 203室	村田 幸雄	WWFジャパン(財)世界自然保護基金ジャパン
PRTR	8	市民によるPRTRデータの有効活用法	国から公表されているPRTRデータをどのようにすれば、市民生活に活用できるのか、データの読み方を解説するとともに、有害化学物質削減ネットワーク(Tウオッチ)の活動を紹介します。環境中に排出されている化学物質の現状について共に考える。	11月16日	中地 重晴	環境監視研究所	
CSR報告書評価	9	市民と企業の共同作業	「市民と企業の共同作業」をモットーに、企業活動と持続可能な社会について調査研究している本研究会の活動を紹介します。今後の企業活動のあり方についてグループディスカッションを行う。また、環境報告書、CSR報告書等の分析をグループワークで行う。(なお、事前に分析対象の報告書を手直し、眼を通していただく。)	11月30日	人間文化 403	角田 季美枝	バルディーズ研究会運営委員
リスクコミュニケーション	10	化学物質をめぐるリスクコミュニケーションと世界の化学物質政策の動向	日本の化学物質管理を進めていくためには、リスクコミュニケーションを進めること、そして、同時に世界の化学物質政策がどのような方向に動いているのかを理解することが重要になってきます。講義では欧米アジアを比較しながら日本の化学物質管理政策のあり方、そこでのリスクコミュニケーションのあり方を考えていきます。	12月7日 休講	共通講義棟 1号館 203室	織 朱實	関東学院大学教授
リスクコミュニケーション	11	コープのリスクコミュニケーションの取り組み	「科学的な物の見方で」という事は実は大変なこと。現実社会では「不安を煽り・不安に乗る」商売の方がやりやすい。生協がどのように取り組んできたかをリスクコミュニケーションの手法も含めて解説する。	12月14日		丸山善弘	コープかながわ組織本部長
食のリスクコミュニケーション	12	食の安全リスクコミュニケーション	食品安全基本法はリスク分析を基本に食の安全を確保するものである。リスク分析はその食品のリスクの程度によって管理の方法を定めていくのだが、リスクについて消費者とのコミュニケーションをはかることが重要な要素になる。	12月21日		日和佐信子	雪印社外取締役
国際的な食のコミュニケーション	13	国際的な食品の安全性確保のためのコミュニケーションの状況	コーデックス委員会の決議事項は、協同組合の事業活動はもとより、地球上の食や健康問題に直接影響を及ぼしています。国際的な食品の安全性確保のためのコミュニケーションの状況やシステムなどを講義し、食のリスクコミュニケーションのあり方や課題を解説します。	1月11日		鬼武一夫	日本生活協同組合連合会 安全政策推進室長
コミュニケーションスキル	14	コミュニケーションを円滑に進めるために	すべての利害関係者がお互いを理解し成長し、解決方法を見出していくこと、プロセスなどを大切に考えることや解決方法はどうか。第3者(メディエーター)として必要な「聴く」と「伝える」などの講義と、コミュニケーションスキルを身につけるためのトレーニングを行ないます。	1月25日		田中圭子	日本メディアエーションセンター代表理事
コミュニケーションスキル	15	「自然科学と社会科学のフュージョン」「利害関係者間の対話促進」から見えてくる	遺伝子組換え地域コミュニケーション会議や、PRTR表彰制度の企業対話で感じたリスクコミュニケーションの現状を解説します。また、ロールプレイを受講生全員で行ない、科学技術のリスクコミュニケーションにとって必要な事は何かを考えます。	2月1日	人間文化 403	有田芳子	日本メディアエーションセンター常任理事